

ひのめ事

第2回デザイン・アート新人大賞 入選

ひのめ事がコンペに入選

充実した竹田での夏キャンプ生活も終わり大学の授業が再び始まる頃、「アート&デザイン新世代賞」というコンペが行なわれていることを知りました。そのテーマは「古きものを新しく」でした。プロジェクトのコンセプトと合致しているこのコンペに、ひのめ事が制作したマチがひのめを見る看板を提案することになりました。

辻仁成さんをはじめとする世界で活躍する方の審査のもと、ひのめ事の作品は入選という形で選ばれました。

審査員からは、田舎のエピソードを看板という誰もが分かるツールに素直に落とし込んだ点良かったと評価されました。また、海外の方は日本の暮らしに興味があるため、そのような看板が様々な言語で書かれていたらおもしろそうであるとも評価されました。

ひのめ事をはじめとする「キャンプのプロジェクトのアイデアが世間に評価される可能性があること」を感じられる機会となりました。

design stories 主催 アート&デザイン新世代賞

アート&デザイン新世代賞は若き学生を対象とした全く新しいカタチの新人賞です。第2回目のテーマは「古きものを新しく」。25歳以下の芸術家、デザイナー、建築家などを目指す若いクリエイターを応援する賞です。

http://www.designstoriesinc.com/other/art_and_design2-3/



▲ 上：授賞式で賞をいただく
中：コンペのとき提出した作品シート
下：受賞者と審査員との集合写真

HINOME KOTO

ひのめ事

「ヒト・モノ・コト・マチ がひのめを見る」

ひのめ事の「ひのめ」は「日の目を見る」という言葉から来ています。かつて、特に田舎では、衣食住全てを自分たちで補う自給自足が当たり前でした。ところが、現在はそのような自給自足の生活をする人は減りつつあります。しかし、田舎での生活の中には、私たちの知らない生きる知恵や暮らし方があります。ひの

め事は、そんな田舎での生活を、ヒト・モノ・コト・マチという4つの要素に分類し、それぞれの価値を引き出したり付加価値を与えたりすることで、現在に活かせる形を模索することを目的としています。今年度は、特にヒト・マチに着目して活動を行ないました。

メンバー

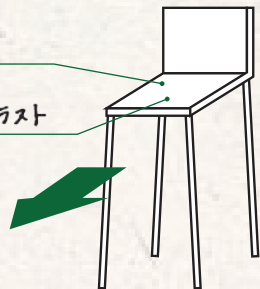
- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 京都工芸繊維大学
デザイン・建築学課程 2回生
菖蒲 薫 | 京都工芸繊維大学
デザイン・建築学課程 2回生
坂川 啓太 | 京都工芸繊維大学
デザイン・建築学課程 2回生
竹田 朱音 |
| 京都工芸繊維大学
デザイン・建築学課程 2回生
竹谷 知紗 | 京都工芸繊維大学
デザイン・建築学課程 2回生
中山 結衣 | 京都工芸繊維大学
応用化学課程 2回生
亀田 啓太 |
| 京都工芸繊維大学
デザイン・建築学課程 2回生
福永 和泉 | 京都工芸繊維大学
応用化学課程 1回生
吉田 和紘 | 京都工芸繊維大学
デザイン・建築学課程 4回生
松山 恵実 |
| 京都府立大学
文学部日本・中国文学科 2回生
小仲 涼 | 京都精華大学
デザイン学部 建築学科 2回生
古谷 雛子 | 京都精華大学
デザイン学部 建築学科 2回生
山根 江梨花 |



興味をひくタイトル

物語をイメージさせるイラスト

椅子に座ったときに
向く方向に物語の
看板がある



66 人を引きつける 目次としての看板 99

白い椅子をモチーフにした看板は新しい風景の一部となり本の目次のように引き寄せられた人々を点在する看板へ導きます。

66 物語を語る看板 99

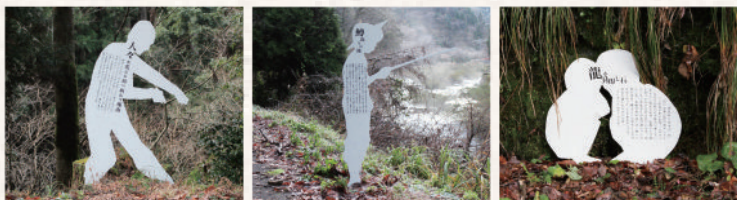
人のシルエットと風景との組み合わせにより訪れた人々を物語の世界へと導きます。

背景と合わせることで
物語を連想させる

物語の内容

物語に登場する人の形

タイトル



「看板を作ることで 竹田の暮らしが ひのめを見る」

竹田の方にヒアリングして
回ったとき、歴史、習慣、生活、
思い出など、ある場所で起きた
エピソードがたくさんあること
がわかりました。そして、マチ
という視点で竹田を見たとき、
その暮らしこそが魅力であると
気づきました。そこで竹田外
の方に竹田の暮らしに興味を持っ
てもらいつつ、竹田の方にも、
その暮らしの豊かさを再認識し
てもらおうことで、マチがひのめ
を見ると考えました。
そこで私たちは、竹田という
地を一冊の本と考え、様々な暮
らしを感じられる場所を本の中
の物語とすることで竹田という
本の世界を体験できるようにし
たいと考えました。二種類の看
板の組み合わせによってその仕
掛けを提案しました。



▲柿の葉ずし

「おにぎりによって 竹田の料理の技術が ひのめを見る」

ヒトがひのめを見るとということ
は人の記憶や技術がひのめを見る
ことであると考えました。そこで
今回、竹田の方の料理の技術に着
目し、竹田の奥さんに家庭料理の
作り方、味付けを教わり、それを
一緒にアレンジして、※スポレク
で振る舞いました。
普段とは違う目的で料理をア
レンジすることで、技術の応用
をしようとする一方で、竹田の
方が持つ料理の技術の素晴らし
さを再認識してもらおうことで料
理の技術がひのめを見ると考え
ました。アレンジ料理にはおに
ぎりを選びました。日本人にと
ってお米は食卓に欠かせませ
ん。そんなお米に合うおかずは
たくさんあると思います。それ
らの作り方を教わりつつ、おに
ぎりとの組み合わせることで、普
段とは違う形で味を楽しめると
考えました。※竹田で行なわれる運動会

料理メモ



柿の葉ずし (50こ)

材料

お米 … 8合
柿の葉っぱ … 50枚
塩ます … 2パック
ずし酢 … 適量

作り方

- 1 ますの骨をとる(多いところは切り取る)
- 2 ますを切り身の状態で
甘酢(砂糖+酢)につける
- 3 酢飯をつくる
- 4 葉っぱに酢飯をのせ飾り付けをする

木綿豆腐そぼろ (20こ)

材料

木綿豆腐 … 300g
みそ … 大1
醤油 … 大2
砂糖 … 大2
粉末だし … 小1
おろし生姜 … 適量

作り方

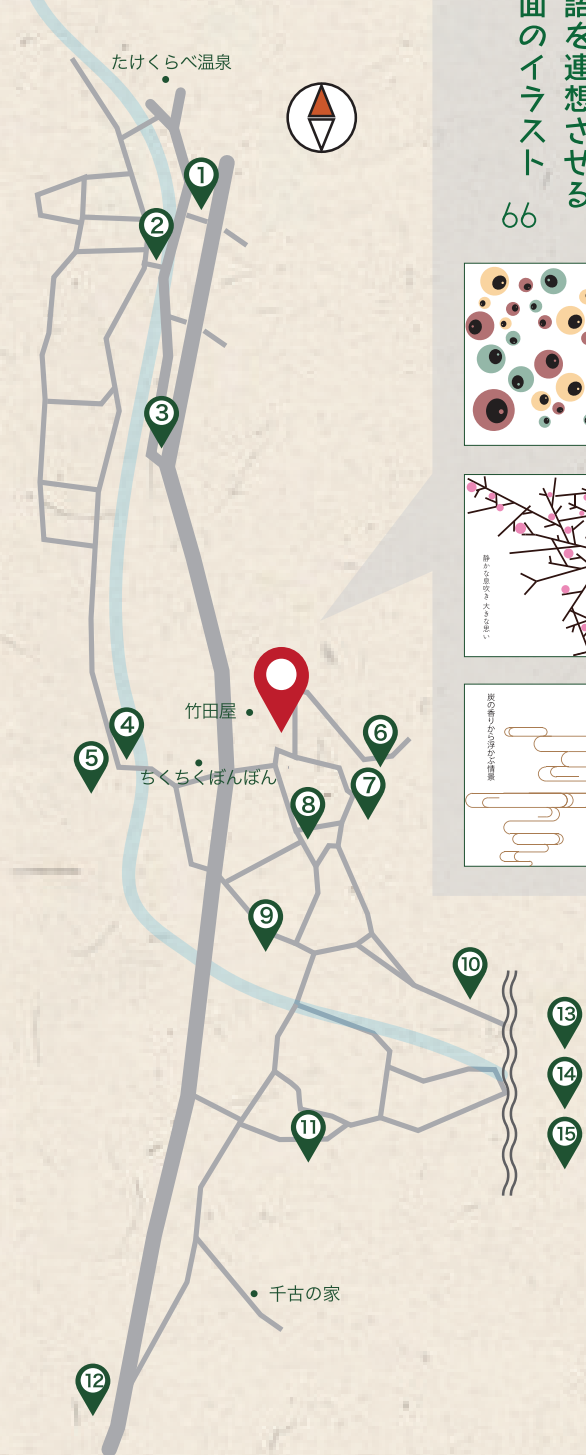
- 1 豆腐の水気をとり、キッチンペーパーで
くるんでレンジで500w4分加熱する
- 2 豆腐をちぎって水分が無くなるまで炒める
- 3 調味料を加えて水分が無くなるまで炒める
こげないようにずっと炒める!!



竹田の暮らしを伝える15の物語

66 竹田看板マップ 99

竹田の物語を知ることができる場所を示しています。



99
物語を連想させる
座面のイラスト
66

「目次としての看板」の座面にはそれぞれの物語を連想させるイラストが描かれています。小説の表紙のようなシンプルなイラストは人の興味を引きつけます。



『物語を連想させる』
竹田の方からお話を聞いて竹田の物語を集めました。炭焼きをしていたという伝統的な話から、結婚したときの感動話まで、幅広く、かつ、暮らしに寄り添った物語を集めました。その中から十五の物語を選び、人型、椅子型それぞれ十五個、合計三十個の看板にしました。それぞれの看板がお互いに関連し合います。

00 タイトル

竹田の物語

ここでは右の竹田看板マップの番号に該当する看板に、実際に書いてある15のタイトルと文章を載せています。どのお話も、竹田の方から聞いた、興味深いお話です。

物語を語る看板

04 1Lどころじゃない涙

あるとき、橋のこちら側からあちら側へと嫁いでいく女性がいる。彼女は 橋を渡っている途中、不意に自分が嫁ぐことを実感して、思いがけず涙を流してしまったといいます。昔々、この橋は福井藩と丸岡藩の境目だったので、廃藩後も竹田の人たちの中には橋の向こうは同じ地域ではないという意識が残っていたのでしょうか。そんな歴史的背景も彼女の涙には隠されていたのかもしれない。

08 祝い角

竹田では新婚夫婦が地域を歩いてあいさつをして回るという風習があります。竹田の人々は二人の新しい門出を心からお祝いするそうです。竹田に残る古き良き風習のひとつです。

12 鱒返りの滝

竹田川の上流、今はダムにせき止められてしまった川のさらに奥に、小さな滝があります。ダムができる前の竹田川には、たくさんの鱒がいましたが、この滝を登ることができずに滝の下で立ち往生していました。それゆえ、この滝は鱒返りの滝と呼ばれています。昔はここで子どもたちが立ち往生した鱒を釣っては食べていたといいます。自然とともに暮らしていた昔だからこそできる、素敵な一面です。

01 製材川

今は杉の山である竹田ですが、昔は広葉樹が生い茂っており、その広葉樹を炭窯で焼いて炭にして、町で売っていたといいます。作られる炭は大変質の良いものでした。そんな炭焼きの窯が現在も残っています。この小屋に入ると炭が焼けたかぐわしい香りがし、そこで汗水流して炭焼きをする情景が頭に浮かびます。

05 生き埋めにされた泥棒

昔、神社からご神体を盗んだ山伏がいました。彼は湧き水の近くで疲れ果て、ご神体を残して逃げ出しました。しかし追っ手に見つかってしまい、生き埋めにされることになりました。彼は自分の無実を主張し続け、死ぬ直前には近くに木を植えて「もしこの木から花が咲いたら自分は無実だ」という言葉を残して死にました。それから一年後、花は見事に咲いたそうです。この話から、ご神体を残した湧き水は盗人清水と呼ばれています。

09 白銀のアート

竹田の冬は大変厳しいものです。寒さはもちろんのことながら、たくさんの雪がこの竹田の地に降り積もります。ここでは毎年雪かきをして集めた雪から様々なキャラクターの雪アートが生み出されます。子どもたちもこの道を通り過ぎるときに雪アートを見ることを楽しみにしているそうです。

13 人々が荒ぶる川へ向かう理由

機械のない時代、山で切り倒した木を麓まで運び出すのは人の力だけでは大変な作業でした。竹田では大水に見舞われると、人々は荒れた川に向かって歩を進めました。危険を冒してまで近づいていったのは、川の勢いが増すのを利用して丸太を川へ流すことで、麓まで運ぶのを容易にするためです。自然の力を利用する知恵がきらりと光るお話です。

02 女性が立ち入れなかった場所

この山は昔、たくさんの僧侶が修行のために訪れていたといいます。この僧侶たちは白山を信仰しており、この山奥にある滝に打たれながら、白山を拜んでいたそうです。そこまでは鎖をつたって登って行き、戦後しばらくするまでは女人禁制だったといいます。

06 山の中の船着き場

平安時代末期ごろまで、この竹田の地は湖の底でした。そのため人々は船でこのあたりを往来していたといいます。その船着場だったとされるのが「夫婦岩」というこの山の先にある一組の岩です。あなたが立っているその場所も昔は湖の底だったかもしれませんよ？

10 銅の波乱万丈物語

この銅山は宝永年間に発見されました。発展は一筋縄ではいきませんでした。紆余曲折を経て製錬所を設けるほどに大きくなりました。あるとき、この銅山を火元とする山口の大火が起こったといいます。竹田の人はこの大火を忘れないように、それから毎年大火の日には焼祭りをするようになったそうです。

14 龍を封印し石

諸説ありますが、竹田には昔二匹の龍がいたという伝説があります。このネジ仏はその龍たちが絡まりあっているように見える石で、仏様として祠を作って今でも祀られています。あるとき小学生がこの石で遊んでいたところ、天候が荒れはじめ、終いに雷が落ち、帰ろうにも帰ることができなくなったことがあるそうです。伝説の龍たちの怒りを買ってしまったのでしょうか。

03 山の有給休暇

12月9日、山の仕事が盛んだった竹田では、この日だけは誰も山に入らず山を休ませる日として山祭りがありました。山へ働きに行っていた人は棟梁に一年がんばったご褒美として温泉まで連れて行ってもらうこともあったそうです。

07 〇〇から目をそらすな

竹田にはイノシシ、シカ、サル、ニホンカモシカ、クマなど様々な野生の動物がいます。中でもクマは襲われることがあるため注意しなければなりません。クマにであったときは自分より弱いと思われないようにクマから目を離さないことが大切だそうです。そんなクマですが狩って食べることもあるそうです。クマの肉はどんな味がするのでしょうか？

11 静かな息吹き 大きな思い

竹田の冬はたいそう厳しい寒さと雪に見舞われます。竹田の人たちにとって、そんなつらい冬を乗り越えた先に待つ春の到来に対する喜びはひとしおです。ねむの木は春先につぼみをつけ、春が来たことを知らせます。花言葉の「歓喜」はそんな竹田の景色にぴったりの言葉です。

15 炭の香りから浮かぶ情景

杉の木を製材していた竹田は、たくさんある製材所を稼働させるのに必要な動力を川で水車を回して生み出していました。それゆえ、川は製材川と呼ばれることもあったそうです。川から用水路を引き、小さな水車を設置して生み出した動力は精米に使ったりもしていました。地域で使うものを地域で生み出す、理想的な暮らしの形です。

